

募集

まるごと体感！ 徳島堰ツアー

5月16日(日)

8時30分集合・出発 15:00 解散予定(雨天中止)

集合場所 ふるさと文化伝承館

要申込 先着20名

申し込み/お問合せ ↓

☎055-282-7408(ふるさと文化伝承館・木曜日休館)

☎055-282-7269(文化財課)



江戸時代につくられ、今も南アルプス市を潤す「徳島堰」の歴史や仕組みを学びながら、スタートラインの葦崎市の頭首工から南アルプス市の流末までの全17kmをバスと徒歩(約4km)で体感します。

持ち物: 昼食、飲み物、マスク / 参加料 300円

※新型コロナウイルス感染予防対策(検温、体調確認、手指消毒、マスク着用)を講じ、感染状況によっては中止の場合もあります。

※今回のコースは令和2年11月21日に実施したツアーとおなじコースです。



ふるさと
の166
誇り



博レポート

市之瀬川の石堤と

上市之瀬の棚田



市之瀬川の石碑(上・左)



市之瀬川の石堤



上市之瀬の棚田景観



棚田の石積

ことができず、このような歴史を知るとき、美しい棚田景観は、さらに別の輝きをもって、我々の前に迫ってくるのです。

文/写真 文化財課

市之瀬川にそって、伊奈ヶ湖へ向かう県道一〇八号県民の森公園線を上っていくと、上市之瀬の集落を抜けた先に、「県営砂防事業発祥之地」という石碑を見つけることができます。またその先の対岸には「日本における県営砂防発祥之地」の石碑と共に、苔むした重厚な石積を見ることが出来ます。この石積は、市之瀬川の川岸が水流によって削られるのを防ぐために設けられた石積護岸の一部なのです。その工事は、県に残る史料によれば、明治十四年(一八八二)に上流の石積堰堤とともに、山梨県が単独で行った本県ではじめての近代砂防工事であったことがわかります。そしてそれは、我が国最初の県営砂防工事でもあったのです。全国の中でまず山梨県が砂防工事に着手した事実、また山梨県の中でまず市之瀬川が選ばれた事実は、いかに本県の、そして本市の市之瀬川の砂防が他に優先すべき喫緊の課題であったのかを物語っています。

また、市之瀬川の石堤の downstream には、市之瀬川やこれに合流する漆川が開削した谷状地形を埋めるように扇状地が発達し、現在はその美しい棚田の景観が形成されています。

この棚田をよく見ると石積によって棚田がつくられているのがわかるのですが、膨大な石の量です。地域の方にこれほどの石をどこから運んできたのかと問うと「この石なんかは、耕起すれば余るくらい石ができてしまう。かえって作土の方が少ないくらいだ」とのこと。

何気ない棚田景観のうらに、長い時間をかけて土石流地帯を切り拓き、これを守り続けてきた先人たちの苦勞を重ねてみる